□千原光雄，村野正昭（編）：**日本産海洋プランクトン検索図説** 1547 pp. 1997. 東海大学出版会. ¥46,350.

日本およびその周辺海域で生育の知られたプランクトンのほとんどを網羅する検索図説で，採録する種類数は，植物プランクトン580，動物プランクトン1600であり，検索図の図版の数は3719に及ぶ．執筆者は植物が15名，動物が33名である．海洋の植物プランクトンは，渦鞭毛藻類，珪藻類，珪質鞭毛藻類など以外は，微細なために，プランクトンネットから抜け落ちてしまったり，採集できても，薬品で固定すると，体が崩れてしまうなど，研究の困難なものが多かった．しかし，1970年代頃より採水・単藻培養・光顕・電顕観察などの手法により種名がかなり明らかになってきた．本書はこのようなナノプランクトンやピコランクトンである藍藻類（シアノバクテリア），原核緑藻類，紅藻類，クリプト藻類，黄金色藻類のパルマ類，ハプト藻類（含・円石藻類），ラフィド藻類，真正眼点藻類，ユーグレナ藻類，プラシノ藻類，緑藻類等についても形態，分布の記述と検索および図を与えている．植物，動物を問わず海のプランクトンに関心をもつ人には手許におきたい本であり，この分野に関係をもつ教育または研究機関，あるいは企業等の図書館にはぜひ備えたい図書である．（渡辺　信）

□Silva P. C., Basson P. W. and Moe R. L.: **Catalogue of the Benthic Marine Algae of the Indian Ocean** 1259 pp. 1996. University of California Press, Berkeley. ¥ ca. 22,000.

インド洋から記録された全海藻のカタログで，完成までに19年を費やしたという本書には総数3289種（種以下の階級の分類群も含む）が採録される．内訳は藍藻類　67属・287種，紅藻類　390属・1810種，褐藻類　96種・596種，黄緑藻類　フシナシミドロ属のみ・11種，緑藻類　77属・585種で，それぞれの種について，異名，インド洋から報告した著者，文献等が挙げられ，次いでインド洋における分布，そして分類学上の「ノート」が続く．命名規約に精通するSilva博士による「ノート」の記述は特に参考になる．日本の海藻はインド洋と共通する種類が多いので，日本の海藻研究者にとっても実に有り難い書である．（千原光雄）

□Van den Hoek C., Mann D. G. and Jahns H. M.: **Algae — An introduction to phycology** 623 pp. 1995. Cambridge University Press. ¥ ca. 6,000.

本書の主たる著者のHoek博士は1978年と1993年に共同執筆者達と藻類の教科書「Algen」を著した．要を得た簡潔な記述と複雑な生活環や細胞構造を理解しやすいように工夫して描いた豊富な図をもつ同書は多くの研究者に利用されたが，何分にもドイツ語で書かれているため，出版当初より英語版の出現が望まれていた．細胞の微細構造の研究や分子系統学の発展から，藻類の多様性・系統・進化に関する知識は最近飛躍的に増大した．本書は藻類のこの方面の知見や考え方がどのようであるかを知るのに好適である．1992年までの研究成果が収録され，類書が少ないだけに貴重な書といえる．（千原光雄）

□リンダ・グラハム（Linda E. Graham）（渡辺　信，堀　輝三訳）：**陸上植物の起源一緑藻から緑色植物へ一** 359 pp. 1996. 内田老鶴圃. ¥4,944.

アメリカ・ウイスコンシン大学で植物学を教える著者は早くから陸上植物の起源について興味をもち，陸上植物と共通の祖先生物をもつ仲間とされる緑藻コレオカエテ *Coleochaete* について，体細胞分裂，体の柔組織形成，精子形成，精子や遊走子の微細構造あるいは生態等を徹底して研究してきた学者である．本書の目的は，著者によると，情報を収集し，最近の証拠をもとに植物の起源についての仮説を検証することにある．陸上植物の定義に始まり，生物陸生化時代の地史的環境を述べる1章と2章，緑藻類の微細構造と生化学上の特性の比較および分子系統分類等に基づく陸上植物の祖先生物の探索の歴史の3章，祖先生物と目されるシャジク藻綱（この場合のシャジク藻はシャジクモ類の他にコレオカエテ目，ホシミドロ目，クレブソルミディウム目なども含む）の概説とそれらの形態・生態・生理の記述の4章と5章までがいわば前半の部で，そこではシャジク藻類